

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
 分担研究報告書

がん対策推進基本計画策定前後の緩和ケアに関する既存指標の推移に関する研究

分担研究者

森田 達也 聖隷三方原病院 副院長 緩和支援治療科 部長
 中澤 葉宇子 国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援研究部 研究員

研究要旨 がん対策基本法成立後、がん対策推進基本計画（以降、基本計画）に基づき緩和ケアに関する様々な施策が実施されている。本研究の目的は、政府統計や先行研究から得られる既存データを用いて、本邦の緩和ケアに関する指標の約 10 年間の推移について検証することである。入手するデータは、Outcome 指標として【患者からみた変化】【終末期患者の家族からみた変化】【医師からみた変化】【看護師からみた変化】、Output 指標として【死亡場所の変化】【がん診療連携拠点病院の変化】【緩和ケアに関するリソースの変化】【オピオイド使用量の推移】【専門的な医療者数の変化】【緩和ケア研修会の修了者数】である。なお、データの収集は平成 27 年度中に実施する予定である。

A . 研究目的

基本計画に基づき、緩和ケアに関する様々な施策が行われてきたが、本邦における緩和ケアの全国指標の推移については十分な十分な検証が行われてない。本研究の目的は、政府統計や緩和ケアの関連学会や関連団体のデータベース、先行研究結果によって得られたデータを収集し、基本計画策定前後約10年間の緩和ケアに関する既存指標の推移を検証することである。

B . 研究方法

- 1) 方法
既存統計分析
- 2) 調査項目

Outcome 指標	
領域	項目/出典：調査年
1) 患者からみた変化	受療行動調査 QOL 項目 / 政府統計：2011, 2014 (2014 の解析が間に合わない場合は 2011 のみ報告)
2) 終末期患者の家族からみた変化	緩和ケアのケアプロセス指標、望ましい死の達成度指標 / 日本ホスピス緩和ケア研究振興財団 J-HOPE Study : 2007, 2010, 2013
3) 医師から見た変化	がん患者に対する緩和ケア、緩和ケアの専門家の利用可能性、他の診療とのバランスなどの緩和ケアの認識、がん患者の緩和ケアの普及のために有効と考えられること、緩和ケアに関する知識 /

	日本医師会調査 医師の意識調査：2008, 2014 (2014 は当研究で実施)
4) 看護師から見た変化	上記の医師対象調査と同じ内容 / 第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」看護師調査：2008, 2014 (2014 は当研究で実施)
Output 指標：	
	領域 項目/出典：調査年
5) 死亡場所からみた変化	自宅死亡、緩和ケア病棟死亡、施設死亡、一般病院死亡 / 政府統計(緩和ケア病棟死亡数は日本ホスピス緩和ケア協会)：2004-2013
6) オピオイド使用量の推移	オピオイド総消費量、がん疼痛の適応のある主要オピオイドの総消費量(モルヒネ・オキシコドン・フェンタニル) / 政府統計：2004-2013 (2013 は政府統計が間に合わなければ、都道府県からの情報収集を検討する)
7) がん拠点病院から見た変化	現況報告書, 医療水準調査 / 2007,2008,2009
8) リソースから見た変化	在宅支援機関の利用の推移 在宅療養支援診療所数, 24 時間対応できる訪問看護ステーション数, 地域の緩和ケア病棟に入院した患者のうち、在宅へ退院した患者の割合 / 政府統計

	<p>専門的な医療者数の推移 日本緩和医療学会専門医 / 日本緩和医療学会, がん看護専門看護師, 精神看護専門看護師(精神科病院勤務を除く), 緩和ケア認定看護師, がん性疼痛認定看護師 / 日本看護協会</p> <p>専門的緩和ケアのリソース利用の推移 緩和ケア病棟のベッド数, 院内緩和ケアチームの数, 専門的緩和ケアサービスを受けた患者の数 / 日本ホスピス緩和ケア協会, 日本緩和医療学会</p> <p>緩和ケア研修会の修了者数 / 日本緩和医療学会</p>
--	--

(倫理的配慮)

本研究は、疫学研究に関する倫理指針に従い、国立がん研究センターの研究倫理審査委員会の承認を得て実施する。

C . 研究結果

特記事項なし

D . 考察

特記事項なし

E . 結論

特記事項なし

F . 研究発表

1. 論文発表
巻末参照 (. 研究成果の刊行に関する一覧表)
2. 学会発表
森田 達也 . Regional Palliative Care Intervention Study using the Mixed-methods Design(日本における緩和ケア普及のための社会的研究) . Sapporo Conference for Palliative and Supportive care in Cancer 2014 (がん緩和ケアに関する国際会議 2014) . 2014.7.11 ~ 12 札幌

G . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし